

目次

1. be 動詞の過去形

2. 過去進行形

3. 未来形

4. 不定詞

5. 動名詞

6. 助動詞

7. 比較

8. There is(are)

9. 接続詞

10. 受動態 (受け身)

単元名：be 動詞の過去形

be 動詞の過去形：「～だった。」「～いた、あった。」という意味。

英文の主語とそれに対応する be 動詞の表

主語	現在形	過去形
I	am	was
単数 (I・you 以外)	is	was
you、複数	are	were

※表から分かる通り、
is、am の過去形→was
are の過去形→were となる。

be 動詞の過去形の文の作り方

主語 + be 動詞の過去形 + その他。

It was rainy.
(雨でした。)

We were in Canada.
(私たちはカナダにいた。)

be 動詞の過去形の疑問文の作り方、答え方

be 動詞の過去形 + 主語 + その他 + ?

- Yes, + 主語の代名詞 + be 動詞の過去形./

- No, + 主語の代名詞 + be 動詞の過去形 + not.

(It **was** cold last month.)

Was it cold last month ? – Yes, it was./No, it wasn't.

(先月は寒かったですか。 - はい、寒かったです。 / いいえ、寒くありませんでした。)

be 動詞の過去形の否定文の作り方、答え方

主語 + be 動詞の過去形 + not + その他.

The students **weren't** in the room.

(生徒たちは部屋にいませんでした。)

単元名：過去進行形

過去進行形：過去の時点でやっていた動作を表す。
「～していた。」という意味。

過去進行形の文の作り方

主語 + **be 動詞の過去形** + **動詞の ing 形** + **その他.**

Ken was watching TV then.

(ケンはそのとき、テレビを見ていた。)

過去進行形の疑問文の作り方、答え方

(**Ken was studying English then.**)

Was Ken studying English then ? – Yes, he was./No, he wasn't

(ケンはそのとき、英語を勉強していましたか。)

- はい、していました。 / いいえ、していませんでした。)

※答えるときは **Yes, ~ was./No, ~ wasn't.**

Yes, ~ were./No, ~ weren't.

過去進行形の否定文の作り方

主語 + **be 動詞の過去形** + **動詞の ing 形** + **その他.**

They weren't playing soccer then.

(彼らはそのとき、サッカーをしていませんでした。)

単元名：未来形

未来形：明日や来年など未来のことについて「～するつもりだ。」「～する予定だ。」「～するだろう。」という意味の文。

未来の事柄を表す語

- ① 連語 be going to ~：以前から決まっていた予定
- ② 助動詞 will：その場で決めた意思、未来の予測
- ③ 現在進行形：近い未来

未来形でよく使われる語

tomorrow(明日)、next week (来週)、next Sunday (次の日曜日)、next year (来年) など。

be going to ~の文の作り方「～するつもりだ。」「～する予定だ。」

主語 + be 動詞 + going to + 動詞の原形 + その他。

Ken **is going to** play soccer.

(サッカーをするつもりだ。)

be going to ~の疑問文の作り方、答え方

be 動詞 + 主語 + going to + 動詞の原形 + その他 + ?

Is Ken going to play soccer? - Yes, he is./No, he isn't.

(ケン is サッカーをするつもりですか。 - はい、します。 / いいえ、しません。)

be going to ~の否定文の作り方

主語 + be 動詞 + not + going to + 動詞の原形 + その他.

Ken **isn't going to** play soccer.

(ケンサッカーをするつもりはない。)

will の文の作り方

「~しようと思う、~するつもりだ。」「~だろう、~でしょう。」

主語 + will + 動詞の原形 + その他.

Emi **will clean** her room.

(エミは部屋を綺麗にするつもりだ。)

will の疑問文の作り方、答え方

Will + 主語 + 動詞の原形 + その他. - Yes, + 主格の代名詞 + will./
No, + 主格の代名詞 + won't.

Will Emi **clean** her room. - Yes, she will./No, she won't.

(エミは部屋を綺麗にするつもりですか。 - はい、そのつもりです。 /
いいえ、するつもりはないです。)

未来を表す現在進行形

go, come, arrive, leave, die, do, finish, have, stay, sleep などの動詞では現在進行形で近い未来を表すことがある。

Your birthday is **coming** soon.

(あなたの誕生日がもうすぐやってくる。)

Ken is **having** lunch with us today.

(ケンは今日私たちと一緒に昼食をとることになっている。)

単元名：不定詞

不定詞：to+動詞の原形の形を不定詞という。動詞に to がつくことで、文中で名詞や副詞、形容詞などの役割をするようになる。
to の後ろにくる動詞は必ず原形で、主語や時制で変化しない。

不定詞の用法

① 名詞的用法「～すること」

※この用法では不定詞が名詞のように動詞の目的語や主語、補語になる。

主語 + 動詞 + 目的語 (不定詞) .

I like to swim.

(私は泳ぐことが好き。)

主語 (不定詞) + 動詞 + その他.

To study is important.

(勉強することは大切だ。)

To go to Canada is my dream.

(カナダに行くことが私の夢だ。)

※**To go to Canada is my dream.**といった文のように不定詞は他の語をともなって主語になることも多いので、まず述語となる部分 (be 動詞など) を見つけてから主語を探す。

主語 + 動詞 + 補語 (不定詞) + その他.

My dream is to be a musician.

(私の夢は音楽家になることです。)

名詞的用法でよく使われる形

like to 動詞の原形：～することが好き

want to 動詞の原形：～したい

start to 動詞の原形：～し始める

begin to 動詞の原形：～し始める

try to 動詞の原形：～しようとする

hope to 動詞の原形：～することをのぞむ

② 形容詞的用法「～する、～すべき」

※不定詞が名詞を修飾する用法。不定詞は必ず修飾される名詞の後ろに置く。

主語 + 動詞 + 名詞 + 不定詞

I have a lot of homework to do today.

名詞 不定詞

(私は今日すべき宿題がたくさんある。)

They want something cold to drink.

(彼らは何か冷たい飲み物を欲しがっている。)

※something が修飾される形はよく使われ、この場合「何か～もの」と訳す。

something to drink : なにか飲むもの

something to wear : なにか着るもの

something to eat : なにか食べるもの

③ 副詞的用法（目的）「～するために、～しに」

※不定詞が前の動詞を修飾し、動作の目的を表す用法。

主語 + 動詞 + その他 + 不定詞.

I went to the park to play tennis.



(私はテニスをするために公園へ行った。)

副詞的用法（原因）「～して」

※不定詞が感情を表す形容詞を修飾して感情などの原因を表す用法。

不定詞は形容詞の後ろに置かれる。

主語 + 動詞 + その他 + 不定詞.

I was glad to see you.



(私はあなたに会えて嬉しかった。)

副詞的用法（原因）でよく使われる形

be glad to ~ : ~して嬉しい

be happy to ~ : ~して幸せだ

be sad to ~ : ~して悲しい

be surprise to ~ : ~して驚く

be sorry to ~ : ~して残念だ

疑問詞＋不定詞

how to ~: 「～のしかた」「どのように～したらよいか」

what to ~: 「何を～したらよいか」

when to ~: 「いつ～したらよいか」

where to ~: 「どこで〈へ〉～したらよいか」

which to ~: 「どれを～したらよいか」

what(which)+名詞+ to ~: 「どんな〈どの〉…を～したらよいか」

Yumi knows how to use the dictionary. (ユミは辞書の使い方を知っている。)

I don't know when to leave. (私はいつ出発すればよいかわかりません。)

※to の後ろは動詞の原形。疑問詞を使うが、文頭には来ない。

ask [tell, want] +目的語 (人) +to ~

ask...to ~: (人) に~するように頼む

want...to ~: (人) に~してほしい

tell...to ~: (人) に~するように言う

I **asked Rena to open** the door. (私はレナにドアを開けるように頼んだ。)

I **want Mei to play** the piano. (私はメイにピアノを弾いてほしい。)

She **asked Taku not to come** in. (彼女はタクに中へ入らないように頼んだ。)

※ (人) に~しないように頼む (言う) 時は、to ~ の前に not を入れて ask [tell] ... not to ~ で表す。

直接話法との書き換え

ask...to ~ → say to ..., “Please ~.”

I said to Mina , **“Please open the window.”**

→ I **asked** Mina to open the window.

tell...to ~ → say to..., “命令文.”

My father says to me , **“Get up early.”**

→ My father **tells** me to get up early.

It ...(for -)to ~

不定詞の名詞的用法で不定詞が主語になる時、不定詞の代わりに **It** を形式的な主語にして、意味上の主語である不定詞を後ろに置くことができる。

It's important for us to study English.

(私たちにとって英語を勉強することは大切だ。)

be easy [difficult(hard)] to ~ 「...は~するのが簡単だ (難しい)。」
「...は~しやすい (しにくい)」

主語 + be 動詞 + easy [difficult(hard)] + 不定詞

This book is easy(difficult) to understand. (この本は理解しやすい (しにくい))

enough to ~ 「十分...なので~できる」

He's **wise enough to control himself.** (彼は十分に賢いので自制できます。)

形容詞+enough 不定詞

形容詞 (副詞) + enough + to ~ の形で表す。また、不定詞の動作をする人を明確に示す時は以下の文のように、to ~ の前に <for+人> をおきます。

It's warm enough for the children to play outside.

(十分暖かいのでその子ども達は外で遊ぶことができます。)

too...to ~ 「～するには...過ぎる」「...過ぎて～できない」

The woman was too tired to work. (その女性は働くには疲れすぎていた。)
(その女性は疲れすぎていて働けなかった。)

形容詞や副詞の前に too をつけて「...過ぎる」、後ろには不定詞がくる。

※ () の訳の方が日本語らしい表現でよく使われる。その場合、日本語訳は否定文になるが、英文は否定ではないので注意が必要。

書き換えの文

too...to ~ → so...that can't ~

I'm too tired to walk. (私はあまりに疲れていて歩けません。)

= **I'm so tired I can't walk.** (私はとても疲れていて歩けません。)

単元名：動名詞

動名詞：動詞の～ing 形で「～すること」を表す。

動詞は普通の文では述語の役割だが、動名詞は名詞のように主語や目的語などの役割を持つ。また、進行形の～ing は「現在分詞」といい、動名詞とは用法が違う。

主語として用いる動名詞

主語（動名詞） + 動詞 + その他.

Swimming is fun. （泳ぐことは楽しい。）

※動名詞は三人称単数扱いとなるので **be 動詞は is、was** を使う。

また、以下の文のように動名詞の主語は他の語とセットとなることが多い。

Making dinner is easy for Maki. （夕食を作ることはマキにとって簡単だ。）

補語になる動名詞

主語 + 動詞 + 補語.

His job is baking bread. （彼の仕事はパンを焼くことです。）

（～です）（焼くこと）

His job = baking (bread) の関係が成り立つ。

動詞の目的語として用いる動名詞

主語 + 動詞 + 目的語（動名詞）.

Ryu likes swimming. （リュウは泳ぐことが好き。）

前置詞の目的語になる動名詞

よく使われる前置詞を使った表現

after ~ing: 「～したあとで」

before ~ing: 「～する前に」

without ~ing: 「～しないで」

be fond of ~ing: 「～するのが好きだ」

be good at ~ing: 「～するのが得意だ」

be afraid of ~ing: 「～するのを恐れる」

look forward to ~ing: 「～するのを楽しみにする」

Thank you for ~ing: 「～してくれてありがとう」

How about ~ing?: 「～するのはどうですか」

動名詞は文中では前置詞の目的語になる。

Miki is good at playing the guitar. (ミキはギターを弾くことが得意です。)

書き換えの文

動名詞と不定詞の文は書き換えができる場合がある。

- ① 動名詞が主語になる場合→すべて不定詞で書き換えられる。

Watching TV is a lot of fun.

→ **To watch TV is a lot of fun.**

- ② 動名詞が目的語になる場合→動詞によって不定詞にできるか変わる。
(詳しくは以下の表参照)

	目的語に不定詞のみ	目的語に動名詞のみ	目的語に両方をとる
動詞	want (欲する) hope (望む) wish (願う) decide (決める) promise (約束する)	enjoy (楽しむ) finish (終える) stop (やめる) practice (練習する) mind (気にする) give up (諦める)	like (好む) love (愛する) begin (始める) start (始める) continue (続ける)

I **started reading** the book.

→ I **started to read** the book.

I **finished reading** the book. → 動名詞のみ

I **want to read** the book. → 不定詞のみ

③ 不定詞と動名詞で意味が変わるもの

try to ~: 「~しようと努力する」

try ~ing: 「試しに~してみる」

remember to ~: 「忘れずに~する」

remember ~ing: 「~したことを覚えている」

forget to ~: 「~するのを忘れる」

forget ~ing: 「~したことを忘れる」

I **tried to ride** the horse. (私はその馬に乗ろうとしました。)

I **tried riding** the horse. (私はその馬に乗ってみました。)

Remember to call me. (忘れずに私に電話してください。)

Do you **remember meeting** me ?

(あなたは私と会ったことを覚えていますか。)

I often **forget to feed** the fish. (私はよく魚にえさをやるのを忘れます。)

I'll never **forget seeing** you here.

(あなたはここで会ったことを決して忘れません。)

単元名：助動詞

助動詞の種類：can(～できる)、will (～だろう、～するつもり)、must (～しなければならない、～に違いない)、may (～しても良い、～かもしれない)、should (～すべきだ) の5つがある。また、will は would、can は could という過去形がある。

助動詞を使った文の作り方

主語 + 助動詞 + 動詞の原形 + その他.

Mike **must clean** his room. 現在

(マイクは彼の部屋を掃除しなければならない。)


Emi **could answer** the question. 過去

(エミは質問に答えられなかった。)

助動詞を使った疑問文の作り方

助動詞 + 主語 + 動詞の原形 + その他 + ?

(**It will** be rainy tomorrow.)


Will it be rainy tomorrow ?

(明日は雨になるでしょうか。)

助動詞を使った否定文の作り方

主語 + 助動詞 + not + 動詞の原形 + その他.

You **shouldn't** use it.

(あなたはそれを使うべきではない。)

be able to~の表現

be able to ~は can と同じ「~できる」という意味。

I am able to speak English.

(私は英語を話すことができない。)

Could you ~?、Would you ~?の表現

Could you ~?、Would you ~?はほぼ同じ意味で「~していただけませんか。」という意味。

Could you tell me the way to the station ?

(駅までの道を私に教えてくださいませんか。)

have to ~、has to ~の表現

have to ~、has to ~は must とほぼ同じ「~しなければならない」という意味。主語が三人称単数現在では has to ~となり、過去形は had to ~となる。

I have to go to bed now. (私は寝なければなりません。)

must と have to ~の違い

否定文の際、must は命令、have to ~は必要性の意味が強い。
mustn't (～してはいけない)、don't have to ~ (～しなくてもよい、～する必要はない)

must の疑問文（否定）の答え方

No, + don't have to.

Must I go to bed now ? – Yes, you must. / No, you don't have to.

(私は今寝なければなりませんか。 はい。 / その必要はありません。)

命令文の書き換え

命令文→You must ~、否定の命令文→You mustn't ~にすることがある。

Wash your hands. = You must wash your hands.

Don't drive so fast. = You mustn't drive so fast.

shall を使った疑問文

Shall I ~? (私が) ~しましょうか。 Shall we ~? (私たちが) ~しましょうか。

Shall I teach you English ? – Yes, please. / No, thank you.

(あなたに英語を教えましょうか。 お願いします。 / 結構です。)

単元名：比較

比較：2つあるいは3つ以上のものを比べる時に使う。

「比較」では形容詞や副詞を変化させ、主に同等のものを比べる時は「原級」、2つのものを比べる時は「比較級」、3つ以上のものを比べる時は「最上級」を使う。

原級の文「～と同じくらい」

原級の文では形容詞、副詞の前に **as** をつけ、もう一つ比べる相手の前に **as** をつける。

主語 + 動詞 + **as** + 形容詞・副詞 + **as** + 比較対象

形容詞を使った原級の文

Mao is as tall as Ria. (マオはリアと同じくらいの背丈です。)

副詞を使った原級の文

Taro runs as fast as Jiro. (タロウはジロウと同じくらい速く走る。)

...と同じくらい～な A の表現

主語 + 動詞 + **as** + 形容詞 + 名詞 + **as** + A

I have as many CDs as Ken. (私はケンと同じくらいの数の CD を持っている。)

just や almost を使った同格の文

just as ~ as ... で「...とちょうど同じくらい~」、almost as ~ as ... で「...とほとんど同じくらい~」と表すことができる。

主語+動詞+just・almost+as+形容詞・副詞+as+比較対象.

This street is **just as wide as** that one.

(この通りはあの通りとちょうど同じ幅です。)

London is **almost as hot as** Tokyo in July.

(7月にはロンドンと東京とほとんど同じ暑さです。)

原級の文の否定文「~ほど...ではない」

原級の文の否定文は**比較級**の文と書き換えることができる。

↖次に説明

I **don't** play soccer **as well as** Ryuji. = Ryuji plays soccer **better than** I.

↖比較級

(私はリュウジほどサッカーが上手ではない。)

比較級、最上級への変化

比較級は単語の語尾に er、最上級は est をつける。また、つづりが長い単語は比較級は more、最上級は most をつけたり、単語が不規則に変化するものがある。詳しくは以下の通りである。

原級	比較級	最上級
語尾が子音字+y	y を i に変える	
early	earlier	earliest
easy	easier	easiest
語尾が短母音+子音字	語尾の子音字を重ねる	
big	bigger	biggest
hot	hotter	hottest

語尾が-e	r、stをつける	
cute	cuter	cutest
large	larger	largest
その他	er、estをつける	
fast	faster	fastest
young	younger	youngest
つづりの長い単語		
beautiful	more beautiful	most beautiful
slowly	more slowly	most slowly
不規則変化		
good	better	best
well	better	best
many	more	most
much	more	most
bad	worse	worst
little	less	least

比較級の文「～より...」

形容詞、副詞を比較級に変化させて、比べる相手を than~で表して文尾に置く。

主語 + 動詞 + 比較級 + than + 比較対象

形容詞の文

My bag is older than yours. (私のかばんはあなたのより古い。)

副詞の文

Maki runs faster than Meiko. (マキはメイコより速く走る。)

Please speak more slowly. (もっとゆっくり話してください。)

※Please speak more slowly.の文のように比較対象を言う必要が無い場合は than~を省略する。

程度の差を表す語句

比べる2つの数量や程度の差が大きいことを表すときは比較級の前に **much** や **far** を置く。また、「少し」と言うときは **a little** を使う。

This picture is much more beautiful than mine.

(この絵は私のよりもずっと美しい。)

Today is a little colder than yesterday. (今日は昨日よりも少し寒い。)

最上級の文「～の中でもっとも...」

最上級では「of~」、「in~」で「～の中で」を表す文が多く出てくる。
ofの後ろは「the+数字」、「all+複数名詞」などとなる。

例：of the three、of all students など。

inの後ろは場所、組織など。

例：in Japan、in my family など。

形容詞の最上級の前には必ず **the** をつける。副詞の場合は **the** を省略できる。

主語 + 動詞 + **the** + 最上級 + of、in + 比較対象.

形容詞の文

Ken is the tallest of the five. (ケンには5人の中で一番背が高い。)

Ken is the tallest in our school. (ケンには私たちの学校の中で一番背が高い。)

副詞の文

Ken runs (the) fastest of the four. (ケン は 4 人の中で一番速く走る。)

Ken runs (the) fastest in our school. (ケン は 私たちの学校の中で一番速く走る。)

通常の比較級の疑問文

be 動詞や一般動詞の疑問文と同じやり方。

This house is bigger than that one. (この家はあの家より大きい。)

Is this house bigger than that one ? (この家はあの家より大きいですか。)

I run faster than him ? (私は彼より速く走る。)

Do you run faster than him ? (あなたは彼より速く走りますか。)

比較の疑問文「A と B ではどちらの方が～ですか。」

この疑問文は比較対象が物の場合は Which、人の場合は Who を使う。

Who(Which) + 動詞 + 比較級 + A + or + B + ?

Who runs faster , Miku or Mai ?

(ミクとマイではどちらが速く走りますか。)

Which is larger , America or Russia ?

(アメリカとロシアではどちらの方が広いですか。)

比較級の疑問文の答え方

① be 動詞の場合

主語 + be 動詞.

Which is larger , America or Russia ? – Russia is.

② 一般動詞の場合

主語 + do(does、 did).

Who runs faster , Miku or Mai ? – Miku does.

最上級の疑問文「...の中で最も～なのは誰（どれ）ですか。」

Who、 Which、 What を主語の部分に入れて疑問文を作る。

Who(Which、 What) + 動詞 + the + 最上級 + of(in) + 比較対象 + ?

Who runs the fastest of the three ? (3 人の中で誰が一番速いですか。)

最上級の疑問文の答え方

① be 動詞の場合

主語 + be 動詞.

Which is the most difficult of all subjects ? – Japanese is.

② 一般動詞の場合

主語 + do(does、 did).

Who runs the fastest of the three ? – Ken does.

like の比較

① 「A より B の方が好きです。」

like は動詞のため、比較級や最上級の文では better、best を使う。

主語 + like + A + better + than + B.

I like soccer better than baseball. (私は野球よりサッカーの方が好きです。)

② 「B の中で最も A が好きです。」

主語 + like + A + the + best + of(in) + B.

I like winter the best of all seasons. (私は四季の中で冬が一番好きです。)

③ 「どちらの方が好きですか。」

Who(Which) + do(does) + 主語 + like + better + A + or + B + ?

- 主語 + like(s) + better.

Which do you like better, summer or winter ? – I like winter better.

(あなたは夏と冬どちらの方が好きですか。 私は冬の方が好きです。)

④ 「～の中でどれが最も好きですか。」

Who(Which) + do(does) + 主語 + like + the + best + of(in) + 比較対象 + ?

- 主語 + like(s) + A + better.

Which do you like the best of all subjects ? – I like math the best.

(あなたはすべての教科の中でどれが最も好きですか。
私は数学が最も好きです。)

比較級・最上級の重要表現

- ① 比較級の強調「はるかに、ずっと」 much+比較級

This question is much more question than that one.

(この問題はあの問題よりはるかに難しい。)

- ② 「だんだん、どんどん」 比較級+and+比較級

His voice became weaker and weaker. (彼の声はだんだん弱くなっていった。)

- ③ 差を表す表現

This tree is two meters taller than that tree. (この木はあの木より 2m高い。)

- ④ 「他のどの～より」 比較級+than+any other+名詞 (単数形)

Risa runs faster than any other girl. (リサは他のどの少女より速く走る。)

- ⑤ 「...より～」 more+than

I walked more than two kilometers. (私は2キロより長く歩きました。)

- ⑥ 「最も～なもののひとつ」 one+of+the+最上級+名詞 (複数形)

Tokyo is one of the most famous cities in Japan.

(東京は最も有名な都市の中の一つです。)

- ⑦ 「～番目」 the+序数+最上級

I like math the second best. (私は数学が2番目に好きです。)

⑧ 「～倍」 ~times+as+原級+as+比較対象

Mr. Black is twice as old as Her son.

(ブラックさんは彼の息子の2倍の年齢です。)

※1 と 2 はそれぞれ **once**、**twice** となり、3 以上は **three times** のように **-times** をつける。

⑨ 「できるだけ～」

as+形容詞・副詞+as+名詞+can(could)/as+形容詞・副詞+as+possible

Bob ran as fast as he could. / Bob ran as fast as possible.

(ボブはできるだけ速く走った。)

単元名 : There is (are)

There is(are) : 「～に…がある。」という意味。

There is(are)の文の作り方

There + **is(are)** + **物や人** + **場所を表す語**.

There is a girl in the park.

There are two bikes in front of the building.

※物や人が単数なら **is**、複数なら **are** を使う。
money や water など不可算名詞は単数扱いになる。
また、場所を表す語は大抵前置詞をとる。

There is(are)と主語+be 動詞+場所を表す語の違い

There is a girl in the park. (公園に一人の女の子がいる。)


The girl is in the park. (その女の子は公園にいる。)

※**There is(are)**の文は場所を焦点にした言い方。
「物や人」が不特定の場合に使う。逆に「物や人」に焦点をあてた言い方は
主語+be 動詞+場所を表す語の文を使う。

There is(are)の疑問文の作り方

be 動詞 + **there** + **物や人** + **場所を表す語** + **?**

(**There is** a tall tree near the station.)


Is there a tall tree near the station ? – Yes, there is. / No, there isn't.

(There are の文の場合) **Yes, there are. / No, there aren't.**

There is(are)の否定文の作り方

There + be 動詞 + not + 物や人 + 場所を表す語.

There isn't a school in the town.

書き換えの文

There is(are)の文は have を使ってほぼ同じ意味の文を作ることができる。

There are seven days in a week.

A week has seven days.

There is(are)の文に限らず、否定文の any と肯定文の no の書き換えもよく使われる。

There aren't any children in the park.

There are no children in the park.

単元名：接続詞

接続詞：文と文、単語と単語を結びつける品詞。

等位接続詞

and、but、or などの対等な関係の語句や文を結びつける接続詞。

Yumi **and** Keiko are in the library.

I had breakfast , **but** I'm hungry.

従属接続詞

after、when、because など、節を導く接続詞

※節とは文の中で主語＋述語を含むもの。

when、because、if の文

I was watching TV **when** he called me.

I went to bed early **because** I was tired.

If it rains , let's play table tennis.

※接続詞 when、because、if の直後は〈主語＋述語〉がくる。そのため、〈主語＋述語〉が二組になる。

従属接続詞の注意点

She didn't go to school because she was sick in bed.

※二組の主語は同じでも省略しない。

I will play tennis if it is sunny tomorrow.

※if や when などが導く節の中では未来のことでも現在形で表す。

接続詞の文の語順とコンマの使い方

接続詞 if、when、because の導く節を先に出し、主節を後にすることができる。その際、接続詞 if、when、because の導く節の後にコンマ「,」をつける。

We didn't play tennis because it rained.

→ **Because it rained, we didn't play tennis.**

It began to rain when I left home.

→ **When I left home, it began to rain.**

Let's go shopping if you're free.

→ **If you're free, let's go shopping.**

接続詞 that

that も従属接続詞で「～ということ」「～だと」などの意味を表す。if、when、because と同じく、節を導き、接続詞 that の後ろは〈主語＋述語〉になる。また、接続詞 that は省略できる。

I know that Emi is from Osaka.

→ **I know Emi is from Osaka.**

主語＋動詞＋that

I think that Ken is hungry.

動詞 接続詞 節

※that の導く節は名詞節で動詞の目的語となる。

また、よく使う動詞として think、know、say、hear、hope、believe などがある。

時制の一致

I knew (that) she was sick.

※主節の動詞が過去形の時、that 節の動詞や助動詞も過去形にする。

I think that の否定

I don't think (that) Tom can swim.

※I don't think (that) 「～ではないと思う」の文を作る場合、that 節の中で否定せず、I don't think (that)～とする。

主語＋be 動詞＋形容詞＋that

I was glad (that) you came here.

※that 節が形容詞の後ろに置かれることがある。また、よく使われる形容詞として glad、sorry、afraid、sure などがある。

単元名：受動態（受け身）

受動態（受け身）：動作の受け手を主語にした文が受動態（受け身）である。
「～される」と訳す文。また、受動態に対し、動作を行うものを主語にした「～する」の文を能動態という。

過去分詞：動詞が変化した形の1つ。過去分詞には規則動詞と不規則動詞がある。

- ① 規則動詞：過去形と同じ形であったり、語尾に **d**、**ed** をつける。
made、built など。
- ② 不規則動詞：形に統一性が無く、様々。
written、eaten など。

受動態（受け身）の文の作り方

主語 + be 動詞 + 過去分詞 + (by などの前置詞) + (名詞) .

能動態：**Ken uses this pen.** (ケンはこのペンを使う。)

受動態：**This pen is used by Ken.** (このペンはケンによって使われる。)

過去分詞

※受動態では行為者を **by**～で表す。「～によって」と訳す。

行為者とは動作をする人で能動態にした時の主語のこと。

また、以下の文のような行為者を言う必要が無い時や、不明の時、行為者が一般の人々の場合は **by**～を省略する。

Japanese is spoken in Japan. (日本語は日本で話される。)

That mirror was broken. (あの鏡は壊された。)

← 受動態で過去形を表す場合、be 動詞を過去形にする。

受動態（受け身）の疑問文の作り方

be 動詞 + 主語 + 過去分詞 + (by などの前置詞) + (名詞) + ?

(**This book is written in Spanish.**) (この本はスペイン語で書かれている。)



Is this book written in Spanish? (この本はスペイン語で書かれていますか。)

受動態（受け身）の否定文の作り方

主語 + be 動詞 + not + 過去分詞 + (by などの前置詞) + (名詞) .

This curry rice wasn't made by Yumi. (このカレーはユミによって作られた。)

助動詞を含む受動態（受け身）の文の作り方

主語 + 助動詞 + be (原形) + 過去分詞 + (by などの前置詞) + (名詞) .

The party will be held next Monday.

(パーティーは来週の月曜日に開かれるでしょう。)

by 以外の前置詞を用いる受動態（受け身）

be covered with ~ 「~でおおわれている」

be known to ~ 「~に知られている」

be surprised at ~ 「~に驚く」

be made of ~ 「~でできている」

be made from ~ 「~から作られる」 など

She is known to every student. (彼女は全生徒に知られている。)

書き換えの文

①肯定文の作り方

Mr. Jane wrote this book. → This book was written by Mr. Jane.

※能動態の一般動詞の時制と受動態（受け身）の be 動詞の時制は合わせる。

②疑問文の作り方

Does Ken help Yumi ? – Yes , he does. / No he doesn't.

→ **Is Yumi helped by Ken ? – Yes , she is. / No , she isn't.**

※能動態の疑問文は Do、Does、Did が文頭、受動態は be 動詞が文頭になる。

③否定文の作り方

Ken didn't break the mirror.

→ **The mirror wasn't broken by Ken.**

※能動態の否定文は don't、doesn't、didn't を使い、受動態の否定文は be 動詞 + not を使う。

【参考教材】

中学校英語学習サイト

<https://english.005net.com/youten.php>

監修：太田洋、久保野雅史 「学研 パーフェクトコース中学英語新装版」 株式会社学研プラス 2008年

明光義塾講習テキスト英語マスター3β 改訂版